

表、PS003改訂案へのパブリックコメントへの対応

主なコメントのまとめ	コメントへの対応
<p>・AESJ-PS003の改定案に記された6つの提言のうち、2、3、4、6、には主語が記されておりますが、1、には主語がございません。</p> <p>1、から6、は、明記された主語に向けて日本原子力学会が提言されたと理解されますので、1、は誰に対する提言なのか不明です。提言先を特定しない提言だということであれば、本意見自体が的外したものとなってしまいますが、提言先を特定しなければ、提言自体の効果が危ぶまれるのではないかと思います。</p> <p>1、に主語を追記する必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>5、の主語は文章が長く分かりにくいので、より端的に提言先を言い表す必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>6、の主語は「・・・、大学等」となっており、等には何が含まれるのか不明です。不要なら等を削除するか、全て書き下す等、追記・修正が必要ではないのでしょうか。</p> <p>以下、提言の主語の整理について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>項目1：不明</li> <li>項目2：政府、NUMO、電気事業者、再処理事業者、その他関係研究機関</li> <li>項目3：政府、NUMO、電気事業者の他、研究機関、学協会</li> <li>項目4：規制当局</li> <li>項目5：NUMOに加え、原子力工学、機械工学、土木工学、材料学等の多岐にわたる学問領域に携わる大学や研究機関（AESJ-PS003の改定案の記載を上記のように書き直さなければ提言先が分からないような提言になってしまっているのではないのでしょうか？）</li> <li>項目6：政府、NUMO、関係研究機関、大学等</li> </ul>	<p>・バックエンド部会：各項目について主語を適切に再整理した。なお、提言自体を再整理しているため、パブリックコメントと修正案での項目番号は対応していない。</p>
<p>・もし一般の方（国民？）に（提言内容を？）より分かりやすくするのであれば、例えば、国、NUMOが審議会やHPや全国説明会、対話会で説明している資料を引用し、図表なども用いて分かりやすく表現するなどの工夫が必要ではないのでしょうか？</p>	<p>・バックエンド部会：一般の方にもより理解していただけるよう、全体構成を再整理し、最も伝えたい【日本原子力学会としての提言】を文書の冒頭に据えた。また、【現状認識】では、北海道および佐賀県で行われている文献調査に関し、NUMOの該当ページを引用することで、関連する対話の場などの情報にたどり着きやすいようにした。</p>
<p>・提案しているPSはかなり難しい用語をいっぱい使っているため一般庶民が読むのは難しい気がする。</p>	<p>・バックエンド部会：内容を正確に伝えるうえで、ある程度の専門用語の使用は必要であると考えている。ただし、一般の方にもより理解していただけるよう、全体構成を再整理し、最も伝えたい【日本原子力学会としての提言】を文書の冒頭に据えた。</p>
<p>・将来改訂する場合には、物量が極めて少量であり、処分場が極めて小面積であることを強調してください。どうも一般の人は、日常の一般ごみとかのように大量に埋め立てるものという異なるイメージを持っているので。</p>	<p>・バックエンド部会：今回の改訂では本コメントの内容を反映していないが、将来的な状況の変化に合わせて、次回以降の改訂において検討を進める必要があると考えている。</p>
<p>・「案観できる状況にない」は文献調査に協力している自治体に失礼では？また、「このまま～長期的に進展しない」は「文献調査段階」が終わらないことを予想していると誤解されるのでは？</p>	<p>・バックエンド部会：【現状認識】を再整理した。</p>
<p>・「天然バリア」に直接関連する学問領域がないような気がします？地質学など？</p>	<p>・バックエンド部会：天然バリアに関連する領域として、地質学・地球科学を挙げた。</p>
<p>・喫緊の課題である処分場選定に向けた提言でなく総論的な提言をしたいのか？申し上げるまでもなく、現在は、わが国の地層処分技術が社会に定着する途上にあるとの認識の上に立つことが大事。放射性廃棄物問題について原子力学会がどのように取り組み、提言をしたいのか、その全体像を示すことが初めに求められる。</p>	<p>・バックエンド部会：冒頭の書き方について見直した。</p>
<p>・タイトルおよびPSの内容が喫緊な社会的課題として高レベル放射性廃棄物処分に限定していることは理解できる。従って、冒頭の2行は唐突感がある。</p>	<p>・バックエンド部会：冒頭の書き方について見直した。</p>
<p>・「高レベル放射性廃棄物は放射能レベルが特に高く」という記述は、一般に言われている高レベル放射性廃棄物の特徴を正確に説明していない。</p>	<p>・バックエンド部会：【現状認識】に、高レベル放射性廃棄物の特徴を再整理した</p>
<p>「・・・不可避な課題であることを国民と共有すること」と提言しているが、単に不可避というだけでなく、喫緊の課題であり、国民全体の共通な課題であることをさらに強調する必要がある。原文財団の世論調査でも高レベル放射性廃棄物処分の状況について聞いたことがない人が半数以上で国民全体の課題ということが認識されていないことから、国民全体の課題であることを共有する必要がある。</p>	<p>・バックエンド部会：【現状認識】に、高レベル放射性廃棄物の処分を進めることは、原子力発電の恩恵を受けた現代の責任であるとして、国民全体の課題である考えを記載している。</p>
<p>現在海外では着実に地層処分の事業が進んでおり、今後国際協力がますます重要になると考える。国際協力についても1項目入れることが適当と思う。</p>	<p>・バックエンド部会：今後、国際機関との協力の重要性が一層高まっていくと認識しているものの、全体構成から、国際協力で1項目とすることは行わなかった。</p>
<p>「現代の責任」とありますが、原子力学会として具体的に「現代」とはどのような時間スケールで考えているのか明確にした方が良いのではないのでしょうか。</p>	<p>・バックエンド部会：「現代」とは、「原子力発電の恩恵を受けた世代」と想定している。</p>
<p>地層処分については、長期間のことで不確実性もあり、多くの国民に懸念があることに理解を示して、謙虚に技術開発を進めることを明確にした方が良いのではないのでしょうか。</p>	<p>・バックエンド部会：【日本原子力学会としての提言】の項目4に、地層処分の信頼性向上のために必要な基礎基盤研究を着実に継続することを記載した。</p>
<p>マスコミなどに対して情報提供、紹介するので、必要な情報があれば原子力学会に問い合わせして欲しいというような姿勢を示しては如何でしょうか。</p>	<p>・バックエンド部会：日本原子力学会のウェブサイト内「私たちの考え方」ページにコメント等の問い合わせ先が案内されているため、本PSには記載していない。</p>

※主なコメントとそれに対する対応を表にまとめた。同様の内容のコメントは集約して扱い、軽微な修正のコメントは掲載していない。